

---

# 中国厦門留学帰国報告書

平成28年度 宜野湾市海外留学生派遣事業

Day - 2017年12月13日

---



派遣留学第15期生

佐和田大祐

---

## 1.はじめに

「平成28年度 宜野湾市海外留学生派遣事業」第15期生の佐和田大祐と申します。  
平成28年9月～平成29年6月迄の約1年間に渡り、派遣先である中国廈門市にて留学生活を送りました。現地での留学生活の様子や文化・風習など、この度の中国廈門留学での体験談をご報告させていただきます。

## 2.留学先

中華人民共和国福建省廈門市立 廈門理工学院国際教育学院基礎漢語学科

## 3.期間

平成28年9月～平成29年6月迄

## 4.志望動機

歴史的にも中国との関係が深い沖縄県ですが、近年ではインバウンド事業としても力を入れ年々観光客数、観光収益共に右肩上がりの傾向にあります。グローバル化が進む日本において、英語はもちろん今後ますます中国語語学力は重要性を増してくるものと思われま

す。また、留学先である廈門市は中国の5大経済特区の一つにも指定されており、日本をはじめ多くの海外企業が進出していることからグローバルな経済感覚を環境下にあることに魅力を感じました。そうした中で、自身の希少性を高める上でも中国語語学力スキルの習得は必須であると同時に、現地で暮らす人々と接することで文化や価値観の違いをリアルに体験できるまたとない機会であると思

## 5.留学の目標

- 「中国語学力の習得」
- 「中国経済の見聞」
- 「異文化コミュニケーション」

---

## 6.厦門理工学院について

1981年に設立された公立四年制大学で、理工系の大学としては珍しく外国語学部では日本語を専攻とする学生が400人近くいます。

19学部、56学科に20508人（研究生284人、留学生113人）の学生と1061人の教師が在籍しています。国際交流も盛んに行なっており、アメリカやイギリス、カナダをはじめ20カ国54校との提携を結んでいます。



## 7.厦門市について

厦門（アモイ）は、中華人民共和国の福建省南東部に位置する港湾都市です。

思明区・湖里区・集美区・海滄区・同安区・翔安区の6つの市区によって構成されており、人口は約353万人、台湾の真向かいに位置する亜熱帯地方で気候風土は沖縄県とよく似ています。

中華人民共和国の5大経済特区の一つで、副省級市に指定されています。諸外国との関係が深く、多くの海外企業が進出していることから観光面はもちろん、経済的にも重要な役割を果たしている国際色豊かな都市です。

中国語の発音は「Xiàmén（シアメン）」ですが、日本はじめ一部の国では閩南語（福建省南部や台湾などで使われている中国語の方言）読み「Amoy（アモイ）」の名称で広く知られています。



## 8.一年間の流れ

9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廈門到着、市内観光</li> <li>・中国国際投資貿易商談会（CIFIT）</li> <li>・新入生入学式</li> <li>・前期授業開始</li> </ul>	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春節</li> <li>・長江、梅州旅行</li> <li>・中国人学生宅にてホームステイ</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉州旅行</li> <li>・佐世保高専学生との交流</li> <li>・Hashランニング</li> <li>・廈門理工学院35周年記念イベント</li> </ul>	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期授業開始</li> <li>・PERMIC CUP 2017</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廈門大学留学生合同社会見学</li> <li>・ILLUMI RUN</li> <li>・学内対抗リーグ戦 (バスケットボール・バレー・サッカー)</li> </ul>	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生社会見学</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廈門市内大学日本人留学生と食事会</li> <li>・留学生忘年会</li> <li>・スペイン人留学生との三明旅行</li> <li>・スペイン人宅にてクリスマスパーティー</li> <li>・国際教育学部イベントにて留学生劇</li> </ul>	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上海、杭州旅行</li> <li>・インドネシア人留学生との三壱旅行</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期期末テスト</li> <li>・冬休みスタート</li> <li>・日本語学科学生との食事会</li> </ul>	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期期末テスト</li> <li>・山登り（同安）</li> <li>・上海、済南一人旅</li> <li>・上海沖繩県人会参加</li> <li>・帰国</li> </ul>

---

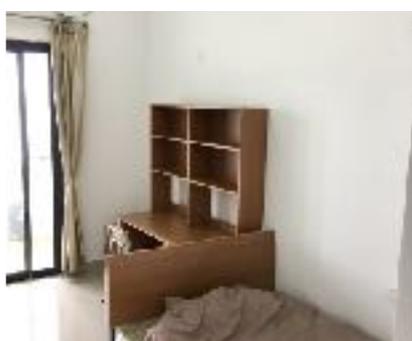
## 9. 学校生活

### 寮生活

中国の大学では基本的に全寮制を導入しています。廈門理工学院も同様に、一部の学生を除いたほとんどの学生が学校敷地内及び近隣にある大学寮において共同生活を送ります。

一部屋に中国人学生は4～6人、留学生は1～2人でシェアする形で、各部屋にはベッドに勉強机、ロッカー、トイレ、シャワールームが備え付けられています。各フロアごとに、洗濯機と給湯器が設置されており学生は自由に使用することができます。

また、寮の建物は男子寮、女子寮とに分かれており双方を行き来することはできません。建物の出入りには学生証カードキーが必要となり、24時間体制で警備員が監視についています。寮によっては門限や消灯時間、インターネット使用可能時間の制限等が設けられています。



### 食事

寮での自炊は禁止されているため、基本的に大学構内及び近隣の食堂で食事を摂ります。

数カ所ある大学構内の食堂は、フードコート形式が多く好みの料理を選ぶことができます。種類も豊富でデザートから果物、麺類、カレーライスなど日本でも馴染みのある料理も数多くあります。大学周辺の食堂には更に多くのお店が軒を連ね、日本食はもちろん韓国料理、タイ料理など海外料理をはじめ、中国の各地方料理専門店も点在しています。



---

## 授業・時間割

### 一中国語講座

”読む”、”書く”、”聞く”、”話す”をはじめとする中国語系講座はもちろん、以下に列挙する「太極拳」「中国絵画」「書道」に至る全ての授業は英語及び中国語で行われます。

世界の共通言語とも言われる英語を当然のように使いこなすクラスメイトらに合わせ、授業は英語主体で進められました。中国語はもちろん、英語の学びの取り組み方・重要性を再認識させられました。

中国語講座に関しては、その多くを学業パートナーとして中国人学生に手伝って頂きました。留学生1人に中国人学生1人がマンツーマンで付き添ってくれ、先生の言っている意味や授業の理解できない部分をより身近な視点から丁寧に教えてくれました。彼らの助けがなければ全く理解できなかった部分も多く、学業パートナーのみならず良き友人として信頼関係が築けました。



### 一太極拳

中国の伝統武術の一つである太極拳ですが、本授業にて初めて経験しました。

動きは緩やかで先生の型を真似するだけの簡単なものかと思いきや、顔や手足の位置、姿勢の保持など気を配る点が多々ありました。熟練者の動きは見惚れてしまうほど滑らかで太極拳の奥深さを感じました。

また、中国では早朝や夕暮れ時に各所の公園、広場で中高年の方々が大勢で太極拳に励む姿を度々目にし、心身の健康という面においても中国に根付いている文化なのだと感じました。



---

## 一中国絵画

絵具を水で薄く溶かし、塗っては乾かす作業を何層にも繰り返し色の深みを出していく画法を用います。白地の用紙に写し絵で基礎となる下絵を描き、その上から何層にも絵具を重ねることで色の深みや鮮やかさに差異が生じます。同じ下絵にも関わらず全く異なった印象を与えることに驚きました。授業内では神仏像と草花の中国絵画を描きました。



## 一書道

日本でも馴染みのある書道も授業の一環で行いました。日本の漢字と中国の簡体字の違いに多少の戸惑いでしたが、“トメ”や“ハネ”、“タメ”といった基本部分に関しては大きな差異はないように感じました。

漢字に不慣れなクラスメイトの留学生達は初めての書道に興味津津ながらかなり苦戦している様子でした。私が所属する国際教育学部内では年度末にイベントが催され、十数人の留学生と共に中国劇を披露しました。歌と踊りが融合された劇の中で、私は中国語のセリフと書道パフォーマンスの役を任せられました。



## 一 中国文化講座（料理）

隔週で開催された本講義では、中国料理の調理及び実食を行いました。事前講義で食材の名称や調理方法を学び、学業パートナーである中国人学生らに手伝ってもらいながらクラスメイト全員で中国料理の調理を行いました。座学とは異なり、役割分担から調理手順の進行など、常にコミュニケーションが求められる講義は新鮮で、クラスメイトをはじめ中国人学生とも、より密度の濃い交流ができたと感じています。



## 一 時間割

前期		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土日
午前	1時限	中国社会概況 (Chinese overview)		リスニング (Chinese Listening)	リーディング (Chinese Reading)		休日
	2時限		ライティング (Chinese Writing)	リスニング (Chinese Listening)	リーディング (Chinese Reading)	会話 (Chinese Speaking)	
午後	3時限		書道 (Calligraphy)			中国絵画 (Chinese Painting)	
	4時限					中国絵画 (Chinese Painting)	
夜間	5時限		太極拳 (Taiji)				

後期		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土日
午前	1時限	会話 (Chinese speaking)	リスニング (Chinese Listening)	(Chinese Practice)	中国文化 (Chinese Cultural)	ライティング (Chinese Writing)	休日
	2時限	会話 (Chinese speaking)	リスニング (Chinese Listening)	リーディング (Chinese Reading)		総合 (Comprehensive)	
午後	3時限	リーディング (Chinese reading)					
	4時限						
夜間	5時限						

---

## 10.課外活動

### 休日

講義のない空き時間や休日には、可能な限り留学生や中国人学生、現地で知り合った中国人と行動を共にすることを心掛けました。周りに日本人が少なく、コミュニケーションを取るには必然的に中国語や英語を使わざるを得なかった状況は結果的に幸いであったと感じます。

自ら積極的に声を掛け、頂いた誘いを断ることなくコミュニケーションを継続することで、語学語力の向上と親密度の高い交流ができました。



中山路



コロンス島（鼓浪屿）



廈門大学

### 日本語交流会

週に一度、日本語学科の学生達との日本語交流会に参加しました。

廈門理工学院唯一の日本人教師である田中智子先生が主体となり、日本語語学力を高めたい学生が任意で参加するこの交流会では、その日のテーマや雑談を全て日本語のみで会話で行います。授業やセミナーといった肩肘の張った形式ではなく、リラックスした雰囲気で行われるこの交流会では、日本語を専攻とする日本語学科の学生のみならず、日本アニメや漫画、J-POPソングなどを通して日本に興味を持った多くの他学部の学生も加わりました。ボランティアとして周辺の他大学に通う日本人留学生らも時折参加し、互いに交流を深めました。



---

## 茶道教室

日本語交流会と並行して、茶道教室にも参加しました。

「宜野湾市海外留学生派遣事業」第14期生の西原真紀子さんと同時期に厦門理工学院学生として学んでいた池田武さんがボランティアで講師として招かれ、茶道の作法をご教授頂きました。



## サークル活動

日本の大学と同様、スポーツ系から文化系まで多くのサークルが活動しています。

一部を除くほとんどのサークルはかなり自由度が高く、和気藹々と活動している印象を受けました。多くの学生は、複数のサークルに所属し学部学年分け隔てなく交流を楽しんでいました。

サークルの運営を学生主体で行う点は日本の大学とさほど変わりはありませんが、スポーツ系サークルにおいてはユニフォーム制作からチーム編成まで学部学科やクラスを主体に行います。大学内でリーグ戦を運営する様は日本の大学では中々見られない光景であると感じます。

私は留学生チームとしてバスケットボール、バレーボール、サッカーサークルに所属し試合に臨みました。



---

## 11. 帰国後の取り組み

### 「台湾ホームステイ受け入れ宜野湾・員林JC共同友好事業」 通訳ボランティアスタッフ

宜野湾青年会議所がかねてより行なっている台湾員林青年会議所との交流事業において、通訳ボランティアスタッフとして参加させて頂きました。本事業では台湾員林の子供達に沖縄（宜野湾）の歴史や現象を学んでもらい平和の大切さを感じてもらうこと。さらに沖縄の子供達との異文化交流を通し、言葉の大切さ、世界に興味を持ちこの事業をきっかけに員林・宜野湾の子供達が、将来世界を股に掛けるグローバルネットワークになるきっかけ作りをすることを目的としたもので、私含め知人の中国人2名の協力を得て本事業に参加し員林・宜野湾青年会議所員及び員林・宜野湾の子供達の通訳を行いました。

現段階の中国語語学力では専門用語を必要とする通訳としてはまだまだ力不足を痛感せざるを得ませんでした。コミュニケーションの点においては意思疎通が図れ1年間の廈門留学の成果だと感じました。

### 「第84回インターナショナル・東京ギフトショー秋2017」への参加

廈門で貿易関係の会社を営んでいる中国人の知り合いの方が同イベントに出展されるということで、ボランティアとして手伝いに行き参りました。

「東京ギフトショー」は毎年2度開催され、日本をはじめ世界各国から多くの企業が注目する一大イベントです。小物や生活雑貨、食品、美容製品等あらゆる種類の製品の見本市として、多くのバイヤー・サプライヤーが参加します。

知り合いの会社の出展ブースに達、来場者への接客や実際の取引の手順、その他の出展ブースの観覧など、有意義な時間を過ごすことができました。

### 中国語講座への参加

「宜野湾市海外留学生派遣事業」第14期生の西原真紀子さんからご紹介いただいた、中国語勉強会である「菊花会」、及び宜野湾市国際交流協会が主催する「中国語講座」へ参加させて頂きました。1年間の廈門留学をただの思い出と留めることなく、自らのスキルへと昇華させるべく今後ますます中国語語学力向上に向けた勉学に励んでいく所存です。

---

## 12.留学を終えて

初めての海外生活、初めての中国語学習、全てが未経験の中始まった1年間の廈門留学は、毎日が新しい刺激で満ち溢れていました。

今回の留学を経て、多くのことを学びました。中国語語学カスキルはもちろん、中国人学生や現地住民との交流、外国人留学生とのコミュニケーション、様々な価値観や思想に触れることで得た経験は私の人生において一生の財産となりました。

中国の壮大な景色に圧倒され、伝統を重んじる文化や風習に胸を踊らせ、触れ合う人々の暖かさに心を打たれました。と同時に、離れて分かる日本の良さも数多く発見しました。

強力なインフラ環境に、行き届いたサービス精神は世界に類を見ない質の高さが伺え、まさにジャパンプオリティと言われるに相応しく、勤勉で真面目な人間性は廈門においても称賛の声が多く聞こえました。一方で、中国と沖縄には似たような部分も多々あります。元来中国と沖縄の歴史的な結びつきは深く、節目の行事や文化・風習の面においては類似する点は多く見受けられます。おおらかで、家族や周りの人々を大切にする様子は居心地が良く、慣れない生活の中では本当に救われました。

帰国後は、中国語通訳ボランティアスタッフや中国語講座への参加など、更なる中国語語学の向上に向け取り組みを継続しており、素晴らしい経験をさせて頂いた宜野湾市と廈門市への恩返しをするべく努力していく所存です。

最後に、長いようで短いあっという間に過ぎ去った1年間の廈門留学。こんなにも貴重で素敵な機会を与えて頂いた事に、この場を借りてお礼を言わせて下さい。

文化や習慣が異なる異国の地での生活に不安や戸惑いは多々ありましたが、1年間に渡る留学期間を全うできたのは本事業をサポートして下さった宜野湾市市民協働推進課職員の皆様はじめ、宜野湾市民の皆様、応援してくれた家族や友人達、何より廈門で出会った全ての方々のお陰であり、感謝の気持ちで一杯です。宜野湾市、そして廈門市の今後益々の発展を願い締めとさせていただきます。

本当にありがとうございました。